

令和七年度1学期の始業式で私はみなさんに、「震災から1年3カ月が経過しましたが、校舎・体育館・グラウンド等、ハード面の復旧はほとんど進んでいません。

学習においても部活動においても、「環境さえ整えばもっとできるのに。こんな環境じゃ記録も出せないし、勝てるわけない」など、できない理由を考えても仕方ありません。

「やる前から難しいなんて勝手に決めない。できない理由を考えるのではなく、どうすればできるかを考える」ということを、今年度の目標の一つに加えてください。

「これはできない」と弱音を吐くのではなく、「こうすればできる」と考えることで、すぐにはできないことがあっても、1歩ずつ前に進むことができます。

今年度も皆さんと先生方が一丸となり『チーム穴高』で、変えることのできる「将来」に向け、一生懸命、後悔なく生きていきましょう。」と述べました。

この1年間を振り返って、みなさんは一生懸命、後悔なく生きてきましたか？

「ハード面」をみると、今終業式を行っている体育館、下の格技場は今年1月に全面復旧しました。また、生徒玄関や管理教室棟も、ほぼ震災前の姿に戻っています。ただ、図書館棟やグラウンドはこれから設計をやり直し、復旧するのは令和十年度末になると言われています。

「ソフト面」はどうでしょうか？

みなさんは限られた環境の中、不平不満を表に出すことなく、学習、部活動や探究活動に一人ひとりが前向きに取り組みました。6月の高校総体・総文、修学旅行、7月の夏季球技大会、8月の穴高祭、10月の体育祭、3月のアントレプレナー発表会、3月の春季球技大会等では、皆さんの真剣な取組と弾ける笑顔を見ることが出来ました。

学習においては、すでに自分の進むべき道を明確にし、そのための努力を続けている生徒がいます。まだ目標が決まらない生徒は、1日でも早く目標を定め、目標達成に必要な力をつけるための学習に取り組んでください。

4月から1年生は2年生となります。「穴高を支える屋台骨」になるために、今年度以上の努力を期待します。そして2年生は3年生となります。最上級生として「穴高の顔」となるこの1年は、すべての体験や行事が、「高校最後の」体験・行事となります。是非、悔いのないよう1日1日を大切に過ごしてください。

本校の先生方は、生徒一人ひとりに寄り添い、生徒が成長するために力を貸して下さいます。みなさんは、先生方を信頼し、色々と相談しながら、自分の希望する進路に向け、今できる最大限の努力をしてください。

これからもみなさんと先生方が一丸となり『チーム穴高』で一歩一歩前に進んでいきましょう。

令和8年3月24日(火)

校長 島崎 康一